



逆流性食道炎はどんな病気？

逆流性食道炎は、強い酸性の胃液や、胃で消化される途中の食物が食道に逆流して、そこにとどまるために、食道が炎症を起こし、胸やけや胸の痛みなどさまざまな症状が生じる病気です。逆流性食道炎は、もともと日本人には少ない病気でしたが、食生活の変化などによって、最近、患者さんが増えています。

症状

胸やけ・呑酸(どんさん)

胃液や胃の内容物が食道に逆流すると、胸のあたりに焼けるような不快な感じがする胸やけが起こります。また、酸っぱい液体が口まで上がってきてゲップがでる「呑酸(どんさん)」という症状が現れることもあります。

ひどい時は吐いてしまうこともあります。

胸の痛み

胸がしめつけられるような、[狭心症](#)に似た痛みを感じる場合があります。

咳・喘息

咳や喘息が起こることがあります。逆流した胃液が、のどや気管支を刺激したり、食道の粘膜を通して神経を刺激したりして起こると考えられています。

逆流性食道炎の治療を行うと、喘息の症状が改善する患者さんもあります。

のどの違和感・声がれ

逆流した胃液で、のどに炎症が起こり、違和感や痛みを感じる場合があります。ひどくなると食べ物が飲み込みづらくなったり、声がかれたりすることもあります。

*なかには食道に炎症が起こっていても、あまり症状を感じない患者さんもあります。



原因

逆流性食道炎は、下部食道括約筋の機能低下と、腹圧が上がる為に胃液が食道側へ押し戻されてしまうことが主な原因です。

・食道裂孔ヘルニア

加齢や腹圧の上昇などの原因により胃が食道側に飛び出した状態のことを言います。境目のしまりが緩くなるため、胃酸が食道に逆流しやすい状態になります。

・脂肪の多い食事、食べ過ぎ

脂肪の多い食事は、ホルモンの働きなどを通じて下部食道括約筋を緩めることが知られています。また、胃酸が増えるために症状が増悪します。

他に甘い物、香辛料、炭酸飲料、コーヒーなどの摂りすぎも注意が必要です。

・加齢

加齢とともに下部食道括約筋の機能が落ち緩んできます。

・姿勢

背中が曲がった姿勢だと腹圧が強くなり胃酸が逆流しやすくなります。

腹圧とはおなかの圧力のことをいいます。

・肥満

欧米では肥満があると食道裂孔ヘルニアになりやすいことが知られています。

また、肥満によって腹圧が上昇することも胃酸逆流の原因となります。

・飲酒

下部食道括約筋が緩むことや、胃酸分泌の増加により症状を引き起こすと考えられています。

・便秘

便秘になることで、オナラの出口が塞がり、腸内にたまったガスが膨れ上がって胃を下から押し上げる運動が起こります。

この運動によってゲップや胸焼けが起こりやすくなります。

症状は人によっても異なります。この症状だから逆流性食道炎というものがあるわけではなく、同様の症状で異なる疾患のこともあるので注意が必要です。

気になる症状があるときはお気軽にご相談ください。

